演劇ワークショップの手順例

　①　児童会、生徒会のリーダーや有志が、全校集会で問題提起の劇を披露。その後、役になりきったまま、フロアからの質問に答える。

　②　各クラスで、「いやな感じ」を感受するシーンを共有し、劇の修正ポイントを話し合う。

　③　再び、全校集会で修正のアイデアを吟味し合う。

【演劇ワークショップのポイント】

○　それぞれの登場人物の立場に立って、気持ちを考えること。

○　同じ演劇を見ても、人それぞれ感じ方が違う。そこで新しい解決策が見つかる可能性があること。

○　感じるボタンと、考えるボタンと、行動するボタンの３つを押すことができる。